「文化の光」

沖縄県立向陽高等学校　2年生　大城　沙織

日本の南西に位置する沖縄県は、観光立県として有名です。毎年たくさんの観光客が沖縄を訪れ、リピーターも数多くいます。そんなに多くの人を魅了する沖縄の魅力とは、一体なんなのでしょうか。

私が思う沖縄の魅力とは、独特な文化や歴史です。沖縄は実に複雑な歴史を歩んできました。アジアの小国に過ぎなかった琉球王国は、中継貿易で栄えました。その時中国や日本の影響を色濃く受け、琉球独自の文化が生まれたと言われています。今でも人気の琉球漆器や焼き物、ミンサー織などは、その時生まれました。また、首里城をはじめとする琉球王国時代の遺跡は世界遺産にも認定され、いまでも多くの注目を集めています。それだけではありません。アメリカ統治の歴史を持つ沖縄に魅力を感じる若者も多いでしょう。美浜や北谷が若者で賑わっていることからも分かることです。このように、沖縄が歩んできた歴史というのは、それだけで人々を惹きつける魅力を持っているのです。

しかし、沖縄は多くの問題も抱えています。その一つに近年都市化が進んだことによって文化が失われつつあることが挙げられます。沖縄の方言である「しまくとぅば」を例にとっても、その深刻な現状は見えてきます。平成二一年二月、ユネスコが行った発表によると、しまくとぅばは消滅の「危険」がある言語だと言えるそうです。文化を失うことはすなわち、沖縄の魅力を失うことになると私は考えます。観光リゾートとして形骸化した沖縄に、魅力を感じる人は果たしてどのくらいいるのでしょうか。

私が沖縄について考えるとき、ひとつの忘れられない経験が思い出されます。私は昨年の夏休み、ラオスを訪れました。ラオスは東南アジアの貧しい国です。そこにはテーマパークも無ければ、リゾートホテルもありません。しかし、私は二週間の滞在でラオスのことが大好きになったのです。ラオスでは、古くから受け継がれてきた文化が今なお残されていました。ラオス人は皆、自国の歴史に誇りを持ち、幼い頃から伝統文化に触れてきたようです。また、ある高校生は私に英語でラオスの文化紹介をしてくれました。日本とは全く違うラオスの文化。実際に触れてみると、それは刺激的であると同時に魅力的でした。私は自分の信仰と文化を大切に生きる彼らの姿に心打たれたともいえます。

実際、ラオスは欧米人にとって人気の観光地の一つです。そのことは、それだけラオスの文化には魅力があることを示しています。ラオスと同じく、沖縄にも素晴らしい文化があります。それは沖縄だけが持ち合わせる宝物です。その文化をラオスのようにもっと発信していくべきだと私はこの一件で感じました。

私達は意外と沖縄のことを知りません。私の友人は、首里城に足を運んだことがないそうです。そのような人たちが、沖縄の文化を外に発信できるとは到底思えません。また、沖縄に存在する多くの伝統芸能。これらのことを知っている人がどれだけいるのでしょうか。自分が生まれ育った地だというのに、その地を満足に知らない自分自身に気がついたのです。

そんな今だからこそ、私は改めて沖縄のことを知りたいと思います。私は沖縄のことが大好きです。おばぁのゆったりとしたしまくとぅばや独特な造りの遺跡たち。私はその全てを後世に残したいです。その魅力をもっと多くの人に伝えたいと思うのです。その為にはまず、県民である私達が沖縄のことを知らなければなりません。

沖縄県民みんなが沖縄文化の発信者になれたならば、きっと沖縄の魅力は倍増することでしょう。また、外から多くの観光客がやってくることにより、沖縄県民は沖縄の文化に誇りを持つようになります。私はその繰り返しが沖縄文化の活性化につながると思います。

私が観光に期待していることはそれだけではありません。沖縄の魅力は複雑な歴史から生まれました。しかし、その複雑な歴史が生んだ数々の問題も沖縄にはあります。沖縄は基地関連のニュースを毎日のように放送します。また県民は、そのニュースの一つ一つに敏感に反応しています。しかし、そのようなニュースも全国版となるとほとんど放送されないのが現状です。私はそこに沖縄と本土の深い溝を感じずにはいられません。だからこそ、観光をきっかけに沖縄のことを多くの人に考えてほしいのです。触れることと知ることは相互理解の第一歩になりえると私は考えます。

私は観光のもつ力を信じています。観光は多くの可能性を秘めています。しかもそれは、私達県民が沖縄の魅力に気づけば実現可能なことばかりなのです。沖縄が歩んできた歴史を、沖縄だけが持っている文化を、今誇りに思いましょう。沖縄を知り、そして伝えることこそが、沖縄が今後発展していくうえでの重要なポイントになると思います。私はその一端を担っていきたいです。